

今、ここ、自己

こんにちは、斎藤友蔵と申します。

本日は「即今、当処、自己」について、お話をさせていただきます。

即今は、「即」、「今」と書いて即今。今この時という意味です。

当処は、まさしくここ、ということ。

そして自分を表した自己です。

日本曹洞宗の開祖の道元が、まだ天童山で修行中の出来事のお話です。

炎天下で、笠もかぶらずシイタケを乾かしている典座てんざがいました。典座というのは禅寺の食事係の僧をいいます。その方が68才の老僧だったのをみかねた道元が

「老僧がそんな雑用をするなんでおかしい。下っ端にさせればいいでしょう」と言いました。すると老僧は

『他は是れ吾にあらず』と答えました。

他人は私ではない、これは私の修行なのだ、私の修行を他人にやらせるわけにはいきまい、ということです。

私たちは日常、どうしてこんなことを俺がしなければならないのだ、とぼやくことがあります。でも、諸事情でそれを私がすることになれば、それはまさしく私の仕事なんだから、一所懸命にすべきです。老僧はそのことを言いました。

道元は「老僧のおっしゃる取りです」と言った後、付け加えて

「だが今はこんなに暑い、どうして今しなければなりませんか？」と言いました。

これに対して老僧は

『更にいずれの時をか待たん』と返答します。「今を外して一体いつやるというのだ！」と言うのです。

『山僧、便（すなわ）ち休す』と道元は告白しています。「わたしは絶句せざるを得なかった」そういう意味です。

私たちはしばしば、「あとで、あとで」と言います。やらねばならない仕事をちょっと先

送りして、そしてどうしてもそれをやらねばならなくなったとき「いやだ、いやだ」と呟きながらやります。賢いやり方とは言えません。

その老僧が道元に教えたことは、

『即今・当処・自己』です。

即今（そっこん）は『いま』

当処（とうしょ）は『ここ』

いま・ここで・わたしがなすべきことをする。ただそれだけです。

ここでお釈迦様の言葉を紹介します。

過去を追うな。未来を願うな。

過去はすでに捨てられた。未来はまだやって来ない。

だから現在のことがらを、現在においてよく観察し、

揺らぐことなく動ずることなく、よく見極めて実践すべし。

ただ今日なすべきことを熱心になせ。

誰か明日の死のあることを知らん

最後に「典座教訓」の中のこの問答の原文を読んで終わりにします。

山僧云う、「如何んぞ行者・人工を使わざる」と。座云う、「他は是れ吾にあらず」と。

山僧云う、「老人家、如法なり。天日且つかくのごとく熱し、如何んぞかくのごとく地に

する」と。座云う、「更に何れの時をか待たん」と。山僧、便ち休す

今に集中して丁寧生きる、これが禅の基本だと言えます。